

各位

2025 年 2 月 7 日

株式会社 VRAIN Solution

「月間 HACCP」2 月号 特集記事掲載のお知らせ

製造業に特化した AI ソリューションを提供する株式会社 VRAIN Solution（本社：東京都中央区、代表取締役社長：南場勇佑、以下「当社」）は、食品業界の最新情報を発信する専門誌「月刊 HACCP」2025 年 2 月号に特集記事として掲載されました。本特集では、「食の安全性と健全性」をテーマに、食品業界の異物検査における AI 技術の活用事例や課題解決の取り組みが紹介されています。

記事掲載情報

掲載媒体：「月間 HACCP」2025 年 2 月号

発行日：2025 年 2 月 1 日

タイトル：「異物検査の現状と課題、カット野菜の事例からみる AI 画像検査の有効性について」

執筆者：執行役員 ソリューション事業部 部長 石原 慎也

媒体詳細：<https://www.keiran-niku.co.jp/haccp.html>

※リンク先の情報は現在更新中です。1 月号が表示される可能性があります。

「月間 HACCP」概要

『月刊 HACCP』は、「食の安全性と健全性」をテーマに、原材料の生産現場から食品製造、流通、消費まで（farm to table）の一貫した食品衛生対策を柱とし、新時代に対応するための情報誌です。

食品製造工場の現状と課題

食品製造業、特に野菜加工分野では、異物混入防止が重要な課題です。自然由来の原料は、形状や色彩のばらつきが大きく、従来の目視検査やルールベース型の自動検査では対応が難しいのが現状です。そのため、多くの現場では熟練作業員による目視検査が続いていますが、精度のばらつきや、労働人口減少による人材確保の難しさが課題となっています。こうした背景から、持続可能な製造現場を実現する解決策が求められています。

記事内容

本特集記事では、食品業界の現状や課題をお伝えし、これらの課題を解決するための具体的な方法とし

て、当社が提供する AI 画像検査システムや導入事例について解説しています。

【記事構成】

1. 異物検査の現状と課題

食品製造現場で従来から行われている検査方法について、その特徴や課題

2. 目視検査の課題

ヒューマンエラーの問題と、深刻化する労働力不足が製造現場に与える影響

3. 事例からみる AI 画像検査の有効性

カット白菜工場での AI 画像検査システム導入事例を取り上げ、各検査工程で発生する課題と、それに対する AI 検査の強みについて

4. 現場への実装

AI 画像検査システムの概要と導入プロセス

業界関係者の皆様にとって、現場課題の解決に役立つヒントをご紹介します。ぜひご一読ください。

会社概要

社 名：株式会社 V R A I N S o l u t i o n（東証グロース：135A）

本 社：東京都中央区晴海 1-8-11 晴海アイランドトリトンスクエアオフィスタワーY17 階

設 立：2020 年 3 月 16 日

代 表 者：代表取締役社長 南場 勇佑

事業内容：製造業向け AI ソリューションの提供

U R L：<https://vrain.co.jp/>

《本リリースに関するお問い合わせ先》

コーポレート部 広報担当

TEL：03-6280-4915 FAX：03-6280-4916 MAIL：ir@vrain.co.jp